

〇市における介護予防リーダーの 活動が継続できない要因の検討

齋藤恵子1)

桑野美夏子1)

阿久津和子1)

落合佳子1)

王麗華1)

郷間悦子2)

1) 国際医療福祉大学保健医療学部看護学科

2) 元国際医療福祉大学保健医療学部看護学科

研究の背景

〇市では、平成18年から高齢者Hセンター（在宅の高齢者に対し介護予防事業や生きがい対策を含めた保健福祉サービス等を提供する施設）を拠点に活動する介護予防リーダーを育成している。

介護予防リーダーとは、介護予防に関する知識とその重要性について学び、自主的に介護予防を推進する地域のリーダー役となる人材である。

しかし、その活動が継続できない現状がある。

研究目的

介護予防リーダーの活動が継続できない要因を明らかにし、
介護予防活動の支援方法を検討する

研究方法

- 対象者：〇市で介護予防リーダーとして活動している人8名
 - 研究期間：平成27年11月4日～平成27年11月20日
 - 方法：〇市保健師の協力を得て介護予防リーダーとして活動している8名に対し半構造化面接を実施、インタビュー内容は本人の許可を得てICレコーダーに録音した。分析方法は、逐語録を作成し文脈からコード化、カテゴリー化し内容分析した。分析過程では、質的研究者のスーパーバイズを受けた。
- 本研究は、国際医療福祉大学倫理審査委員会の承認を受けて実施した。

結果①

調査対象者は以下のとおりである。

- 男性1名・女性7名
- 年齢は60代前半～80代前半、平均年齢70.25歳
- 健康状態では治療中の疾患がある方が多いが、「良好」や「自信あり」との自覚がある
- 介護予防リーダーとしての活動年数は約5～10年
- 介護予防リーダーのフォローアップ研修にはほぼ毎年参加している

結果②

～表1～

〔介護予防活動の場所・団体の名前等〕

- Hセンターや公民館等における活動を8人中6人が実施していた
- 介護予防リーダー独自の活動を6人が実施していた
- 一人につき1～3つの介護予防活動を行っていた

〔具体的な内容〕

- Hセンターにおける集まりの運営やその手伝い
- Hセンターの運営会議への出席
- リーダー独自の活動を企画・運営
- 集まりに参加した高齢者に楽しんでもらえる気配りや工夫をすること
- 介護予防リーダーの活動の共通認識を図り統一させる話し合いの実施

結果③

～表2～

- インタビューからは31コードが抽出され、〈サブカテゴリー〉は4カテゴリー、[コアカテゴリー]は2カテゴリーに分類された。
- 具体的な結果は、〈見出せないHセンター運営会議への参加意義〉 〈限られた枠組みの中での窮屈なやりづらい活動〉 〈活動に対するHセンター側の理解・協力不足〉 〈活動の場・機会が少ない〉 があげられ、[Hセンター側の運営体制][介護予防リーダーの活動の場・機会]にまとめられた。

考察

介護予防リーダーの活動が継続できない要因の1つ目として、活動拠点である[Hセンター側の運営体制]があげられる。具体的には、〈介護予防リーダーの活動に対する理解・協力不足〉である。このことにより、介護予防リーダーは、〈限られた枠組みの中での窮屈なやりづらい活動〉を強いられ本来の自分たちの活動ができなと感じており、その結果、疲弊し活動を継続できなくなったと考える。

2つ目の要因としては、活動の場や機会の数に関わらず、介護予防リーダー自身が[介護予防リーダーの活動の場・機会]が少ないと感じていることである。

これらの要因により、介護予防リーダーは、自分たちの活動への意欲が見出せなくなり、活動を継続できなくなっていると推察する。

結論

- 介護予防リーダーの活動が継続できない要因として、[Hセンターの運営体制][介護予防リーダーの活動の場・機会]が示された。
- 今後、介護予防リーダーが自分たちの活動への意義が見出せるような支援を検討する必要がある。

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

表 1

調査対象者の介護予防リーダーとしての活動内容

ID	活動		具体的な役割
	場所	頻度	
A	Hセンター	月2回	血圧測定介助 いきいき体操の実施 レクリエーションの実施（カーリング、グラウンドゴルフ、輪投げ、卓球、七夕様、お雛祭り、お楽しみ会等） 食事会（年数回） 元保健師へ季節に応じた健康講話の依頼 市役所に講話依頼（オレオレ詐欺、マイナンバー、交通安全） 大学教員による体力測定の事後フォローの依頼 水分補給、おやつを持ち寄り年配や体が弱い方も楽しんで帰れるような気配り 介護予防リーダーのまとめ（役割分担の決定、統一した対応するための打ち合わせへの召集、長続きするようなフォロー）
	K地区	月1回	運営の方のリーダー 意見はあんまり述べないで皆さんに従ってお手伝いする
B	Hセンター	月1回	運営委員、運営会議への出席
	Hセンター	月2～3回	隔月開催の〇クラブの会場作り、受付、血圧測定の補助、お茶入れ 食事会（年2回）、食事会の事前準備
	Hセンター	月1回	リフレッシュできる集会の企画・運営（楽しく体を動かす、体操、手遊び、口遊び、お茶の準備）
C	Hセンター	月1回	運動、手芸等の企画運営、企画を手伝ってくれるボランティアを探す
	決まっていない	月1回	お弁当の手配、担当者の配置
	決まっていない	月2回	お楽しみ会
D	公民館	週1回	運動・手芸・カラオケ・茶話会等の企画運営、健康に関する講話、安全に関する講話 等の企画運営、経済状況に合わせた物品の購入
E	Hセンター	月3回	運営の手伝い、（お茶だし・講師依頼・会場準備等） 事務局が年間計画を立てるので運営を手伝う
	Hセンター	偶数の月	運営のお手伝い
F	Hセンター	2か月に1回	サポーター的な役割、血圧測定介助、テーブル・椅子等の準備、話し相手
G	N地区	週1回	卓球・グラウンドゴルフの練習
		月1回	卓球・グラウンドゴルフの定期試合
		2～3か月に1回	食事会
H	Hセンター	週1回	会場設営、運営のお手伝い
	市・K地区	月1回	体操・ゲームの企画、お茶を出す、日誌を書く、戸締り

表 2

介護予防リーダーの活動を継続できない要因

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
Hセンター側の運営体制	見出せない運営会議への参加意義	<p>3役が資料を読み上げて終わる会議 これが運営会議なのかと疑問を持った 意見を言っても取り上げられない</p>
	限られた枠組みの中での窮屈なやりづらい活動	<p>準備されたものを押し付けられている感じがある 一方的な企画を細かく割り当てられる 作られているものに沿って活動している感じ 体制というか組織的なものがあまりにも強い 民主的な組織の阻害要因があると強く感じる 会長の目をきにしながら集まっている 「こうやりたい」というと細かい計画書の提出を求められる 会長の許可がないとやれない感じ 窮屈な中でやっていた 当番も割り当てられる 声がかかると活動できない 初めは全然会長の理解がなくて本当にやりづらかった Hセンターの会長が私たちが自由に行って良いって言ってもらえば毎月運動したりおやつ作ったりしてあげられる。 会長から介護予防リーダーに声をかけてくれるわけでもなく、本当にやりづらくなってお休みすることになった 疲れが出てきて、体制が変わらないのであれば続けるのがしんどくなった 活動を企画すると「組織はそういうものではない」とこんこんと話された 「無理矢理声掛けて連れてきたんじゃないの」と取られた 一生懸命やっても評価されない (介護予防リーダーの活動に対して) 会長からストップがかかり戸惑った Hセンターは午前中は高齢者、午後は学童になっている。高齢者を重視した方がなってもらえらるともっと(活動に)理解があったと思う。 会長から「声かけて集まるようじゃダメ、自発的に来なくちゃダメ」と言われた 会長さんの理解が必要だと思う</p>
介護予防の活動の場・機会	Hセンター側の活動への理解・協力不足	<p>介護予防リーダーが「あんまり(介護予防リーダーが)大勢じゃ申し訳ない」と途中で帰ってしまう 他の地区ではHセンターに限らずダンスやカラオケをしていて参加人数も多い。 活動したいが活動の場がない もう少しこまめに(高齢者の集まりを)やってもらえば、他のメンバーと協力してお手伝いできる。 集まりの回数を増やしてもらいたい よその地区はまめにやっているようだが、市内は少ないと思う</p>
	活動の場・機会が少ない	